

二〇二六年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第一回 問題

国語【五十分・百五十点】

注意事項

- 1 問題用紙は1ページから13ページまであります。
- 2 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 3 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入してください。
- 4 解答用紙の余白には何も記入しないでください。
- 5 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 6 「終了」の合図で筆記具を置き、監督の先生の指示に従ってください。

受 験 番 号					名 前
P					

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある）
問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

（1）～（8）は段落番号）

- ① 街に本屋は必要か？ という問いを最近よく目にする。新聞記事やインターネット上の記事で。答えはどうだろうか。本を読む人は「必要」と答えるだろうし、本を読まない人は「必要」と回答するだろう。必要なのに本屋がどんどんつぶれているのは、当然ながら A が多いからだ。私の肌感覚だと葉々社の近所で暮らしている人たちのなかで、日常的に本を読む習慣のある人は百人中、二、三人ではないかと思う。つまり、世の中を生きた人たちの大部分は本を必要としていない。これは言い換えるとながなくても生きていけるということだ。その一方で、本がなければ生きていけないという人たちもいる。葉々社を含めて、全国各地に点在する本屋の多くは、そういう人たちによって支えられている。
- ② 毎日本屋がつぶれていく現状に対しては、実際に本屋を運営していると思うが、「この粗利（注2）あらりやとそらつぶれるわな」と感じている。とにかく店にお金が残らない。もちろん、数を売れば、手元に残るお金も相対的に増えるが、数がそれほど売れないなか、従来の街の本屋がつぶれていくのはある意味で当たり前の話だ。薄利多売方式のビジネスモデルが崩壊（注1）はつかいしている現在、何も手を打たなければ、これからも本屋はつぶれていく。特に駅前や商業ビルなど、立地条件のよい店になればなるほど賃料が高くなり、毎月のランニングコストを支払うだけで精いっぱいという状況に陥りかねない。私の想像だとこれから十年くらいのあいだにこのような好立

地に存在する大型・中型書店は、ますます閉店を余儀なくされるだろうと考えている。

- ③ インターネットの普及とともに始まった雑誌の売上減少。雑誌は週刊誌をはじめ、商品サイクルが短いため、毎週確実に売れていく数字が読めて、安定した収益につながっていたわけだが、② 現在はそうではない。書籍の売上減少とは比較にならないくらい、右肩が下がり続けている。当然、本屋としての売上も下がる。売上の柱が雑誌中心だったこれまでの街の本屋は、今後も厳しい闘いが続くと思われる。とにかく粗利が低すぎるのだ。いつ売れるかがわからない書籍だけを販売していたのでは、店を維持していくためのランニングコストすら稼げない。

- ④ 本屋閉店のお知らせをSNSで見かけるたびに思う。「また、つぶれたか」と。その記事に対して、大手版元の公式アカウントなんか「これまでたいへんお世話になりました。いままでたくさん本を売っていただきました」などのコメントをしていると、「相変わらず、呑気なこと言うてはるわ」と怒りが湧く。このなかの人は、なぜ、その本屋がつぶれたのか、大手版元として何かできることはなかったのか、そういう ④ 思いを馳せることはないのだろうか。端的に言えば、川上に位置する大手版元が決めた掛け率（注4）りつの悪さが、ボディブローのようにじわじわと、その本屋の経営を圧迫していったのではないかと、私は思う。昔のように数が売れないのだから、掛け率を改善しないと持続的な運営が難儀であることは誰の目にも明らかだ。そして、私はこうも思う。大手版元も本屋を作り、自社の社員をそこで働かせて、悪い掛け率で商売した場合、どの程度の給料を社員に支払うことができるのか、いちど実験してみたい。おそらく、現在、支払っ

ているような給料は用意できないはずだ。読者にもっとも近い位置にいる本屋の店員がなぜ、薄給なのか。悪い掛け率はなぜ、改善されないのか。本屋がなくなればなくなるほど、本を売る場所が減り、読者との出会いの場も消滅する。本屋の減少が最終的には大手版元にも **B** 不利益となつて戻ってくると思うのだが、なかで働いている人たちは、そう考えていないのだろうか。本屋閉店が他人事であるかぎり、状況はよくなるらない。

⑤ 私は当然、街に本屋は必要だと思っている。知的好奇心をこれほどまでに満たしてくれる場所はほかにはない。東京駅の近くにある丸善丸の内本店や神保町の東京堂書店なんかは最高に楽しい。一日いても飽きない。飽きさせてくれない。あっちもこっちも読みたい本が次々に見つかり困る。自宅の近所に本屋があるのとないのとは何が変わるか。⑤ 本屋は本を売る場所だが、それだけではない。私が小・中・高校生の頃に通ったような街の小さな本屋は、本を売ることだけを商売にしていたと思うが、いま、全国各地で多発的に増え続けている、独立系書店の多くは、本と人を結び、人と人をつなげる場所になっている。地域のコミュニケーションを担う中継基地のような役割も果たしている。

⑥ 葉々社にも毎日さまざまな属性のお客さんが来店する。職業も年齢も好みの本もみんなバラバラ。共通しているのは本が好きということ。⑥ でも、それがいい。派手な原色だけではなく、淡い色や薄い色を含めて、いろいろな特徴をもつお客さんが出たり入ったりするところが本屋の魅力だと感じている。年配のお客さんだとアマゾンを知らない人もいる。クレジットカードを持っていない人は、ネットショッピングもできない。隣駅の蒲田まで行けば、くまざわ書店と有隣堂があるけれど、たった一駅を移動す

るのが年配の人たちにとっては ⑦ ハードルが高い。年歳を重ねても読書欲が旺盛で、新聞の切り抜きや書名を記したメモを手に来店されるお客さんには頭が下がる。

⑦ 社会に出ると、仕事を通じて、人と出会うことがほとんどだが、本屋の場合は本を通じて、人と人が出会う。たとえば、読書会。葉々社では、ふたりの常連が立ち上げてくれた「葉々社ブッククラブ」がある。運営は常連に任せているため、私が何かを積極的に動かすことはない。幅広い年代の人たちが参加していて、⑧ オフラインだけではなく、オンライン参加も少ないながらある。仕事から離れた場所での本の話をするのは簡単なようでなかなか機会がない。私も会社員時代は、家が職場か本屋かといった生活を続けていたが、本の話を経にできる場を見つけられずにいた。そういう意味においても街の本屋がそこに存在する意義はあるだろう。

⑧ 街の本屋は、⑧ 従来とは異なる方法で運営する必要がある。本以外の商品（できれば粗利のいいものを探したい）を販売してもいい。お客さんが求めるなら野菜でも果物でもベールグルでもドーナツでも何だって売ればいいと思う。大切なことは地域で生きる本好きの人たちのために、できるだけ長く本屋を続けることであり、そのためには知恵を出し続けることが重要になる。街に根付くということは、その店が店主だけのものではなく、街を生きる人たちのために存在することと同義だろう。ただ、ひとりでできることには限界があるので、⑨ 葉々社にかかわってくれるお客さんの力を大いに頼りにしながら、街の本屋としての役割を果たしていきたい。

（小谷輝之『本をとます』）

＊ 問題作成の都合上、文章を改編した箇所があります。

※ (注1) 葉々社〓筆者が経営する書店の名。

(注2) 粗利〓売上から原価を引いた後に残る利益。

(注3) ランニングコスト〓建物や設備を維持する費用。

(注4) 掛け率〓ここでは、書店が商品を仕入れる時の金額が商品の販売価格の何％であるかを示す割合のこと。

(注5) 独立系書店〓個人や小規模な企業きぎょうが運営する書店。

(注6) アマゾン〓オンラインショッピングサイト。

(注7) 蒲田〓東京都にある町名。

(注8) オフライン〓インターネットにつながっていないこと。

(注9) ベーグル〓ドーナツのような形をした、パンの一種。

問1 ― ①「街に本屋は必要か？」とあるが、この問いに対する

筆者の回答について説明した次の文の□にあてはまる言葉を、本文中から五字でぬき出さない。

※本屋に訪れる人の□を満たしてくれる場所は、他には見当たらないので、街に本屋は必要である。

問2

A □にあてはまる言葉として最も適切なものを、**1**段落の文脈をふまえた上で後から選び、記号で答えなさい。

あ 必要不必要という視点からだけでは解決できない問題
い 必要不必要ということ以上にはるかに深刻な別の問題
う 必要と思っている人たちよりも不必要な人たちの割合
え 必要と思っている人たちよりも必要な人たちの割合

問3

― ②「現在はそうではない」とあるが、現在はどうかであると筆者は述べているか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 街の本屋では書籍の売上よりも雑誌の売上の方が減少しており、毎週確実に売れるわけではない。
い 街の本屋では雑誌が売上の中心になっており、書籍の売上減少はあまり問題ではない。
う 書籍の売上減少の影響で雑誌の売上が伸び悩んでおり、本屋の売上の中心は書籍に移っている。
え 書籍の売上減少以上に雑誌の売上が下がり続けており、本屋の安定した収益が失われている。

問4 — ③「本屋閉店」とあるが、筆者は本屋が閉店してなく

なるとどうなると述べているか。それについて説明した次の文の□にあてはまる言葉を、本文の④段落の中から二十四字でぬき出し、最初の七字を書きなさい。

※本屋が閉店してなくなると、□ことになる。

問5 — ④「思いを馳せる」、⑦「ハードルが高い」の本文中

での意味として最も適切なものをそれぞれ後から選び、記号で答えなさい。

④「思いを馳せる」

あ あやまちを認める

い こうだと仮定する

う 素直に謝罪する

え 想像をめぐらせる

⑦「ハードルが高い」

あ 不満が高まる

い 非常に困難である

う 費用がかかる

え 時間が必要である

問6 □B にあてはまる言葉として最も適切なものを後から選

び、記号で答えなさい。

あ 紙飛行機のように

い 片道切符のように

う ブーメランのように

え 打ち上げ花火のように

問7 — ⑤「本屋は本を売る場所だが、それだけではない」と

あるが、本屋は本を売る以外にどういう場所であるのか。それについて説明した次の文の□I・□II にあてはまる言葉を、() 内の字数指定にしたがって、本文の⑦段落の中からぬき出しなさい。

※本屋は、日常生活で□I(十字)□場所であるとともに、

□II(十四字)□機会を得られる場所でもある。

問8 — ⑥「でも、それがいい」とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 本屋とは、さまざまな属性の多種多様なお客さんが集まることに価値がある場所だと思うから。

い 本屋とは、派手な原色の服や、淡い色や薄い色の服を着ていてもよい場所だと思うから。

う 本屋とは、アマゾン知らない人、ネットショッピングができない人でも安心できる場所だと思うから。

え 本屋とは、たとえ一駅の移動が難しくても、読書欲が旺盛な年配の人に身近な場所になっていると思うから。

問9 — ⑧「従来とは異なる方法」とはどのような方法か。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 野菜や果物、ベーグルやドーナツなどの食料品を、書籍よりも多くあつかう販売方法。

い 地域の好きの人のために、新しい書籍の情報を積極的に発信していく販売方法。

う お客さんが求めるものを何でも販売するといった、本屋を長く営むことをめざした経営方法。

え 街の本屋は店主だけのものではないので、お客さんと協力して売上を伸ばす経営方法。

問10 — ⑨「葉々社にかかわってくれるお客さんの力」とあるが、本文で挙げられている、お客さんの力が発揮された例はどんなことか。「運営」という言葉を必ず使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。

問11 次の①～④の各文について、本文の内容と照らしあわせて、正しければ「あ」を、間違っていれば「い」を書きなさい。

① 全国各地にある本屋は、本がなければ生きていけない人たちによって支えられており、日常的に本を読む人は年々増えている。

② 筆者は、読者にもっとも近い位置にいる本屋の店員の給料があまりにも少ないのを大手版元にも知ってもらい、ぜひ掛け率を改善してほしいと願っている。

③ 全国各地で増え続けている独立系書店は、本を売るだけでなく、地域のコミュニケーションを担う中継基地のような役割も果たしている。

④ 筆者は、本屋が街に根付くということは、その本屋が店主だけのものではなく、街に本屋を必要とする人たちのために存在することだと考えている。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

東京に暮らす小学六年生の長谷川十和は、祖母の住む大阪にある星蘭女学院中学校を第一希望として受験勉強にはげんでいる。夏休みも明けて、十和の勉強は徐々に熱を帯びるのであった。

勉強すればするほど、時間はいくらあっても足りないと思いつけられた。学校が再開してからはその思いがさらに強くなった。いままでの十和だったら、なんの理由をつけて学校を休もうとしただろう。でも、不思議と①そんな気持ちにはならなかった。べつにいい子ちゃんを気取っているつもりはないけれど、なんとなく自分が「ゾーン」のようなものに足を踏み入れているのは実感できた。

大人たちがしきりに「目標を持つことの大切さ」と唱えるのは、きつと②こういうことなのだろう。

本来つらいはずの勉強が、あまりつらいと感じない。そもそも「つらい」と思うことの方が本質的じゃないという気さえする。少なくとも、やらなきゃいけない時期にやらなかった頃の方が心はずつと苦しかった。

残り四年分の星蘭の過去問をやる日を父と決めた。九月下旬に四年前、十月中旬に三年前、十一月は上旬と下旬にそれぞれ一昨年と去年の過去問をやり、空いている日は星蘭と傾向の似た他の中学の問題を父が用意してくれる。十二月に入ってからには繰り返し星蘭の過去問に取り組むことも決めた。

星蘭は九月の中旬に文化祭が開催される。前に父から「その時

期に息切れするタイミングが来ると思うから、気分転換も兼ねて一回は見にいく」と言われていたし、おばあちゃんにも会いたかったから、十和もその日を楽しみにしていたが、その予定を土壇場で取りやめた。正直、いまは移動の時間だって惜しい。【あ】「ごめん。もしあれならみんなで行ってきて。私は一人で平気だから。ホントにごめん」

その大阪行きを目前に控えたある日の夕食時、十和は素直に頭を下げた。いつかのキャンプのときは意味合いが違う。本当に申し訳なく思っているという旨を伝えたと、真つ先に花奈が「やっぱりね」と母の方を向き、それを受けた母も「だから言ったでしょう？」と目を細くした。

父は一人だけ心配そうだ。

「いや、十和ちゃん。大阪に行かないのはべつにかまわないんだけど、さすがにちよつと根詰めすぎじゃない？ うまく息抜きしなきゃもたないよ？ 受験までまだ長いよ？」

十和は思わず笑ってしまった。【い】

「それもわかってる。私もなんとなくいつか息切れするような気はしてるんだけど、いまは少しでも勉強したい。その方が心が落ち着くの」

あらためて家族の顔を見回した。そして、もう一度③素直な気持ちを持ちを口にした。

「いつか本当にパンクする日が来たら、そのときはまたみんなで支えてよ」

「支えるって何をしたらいいの？ どうやったらお姉ちゃんの力になれる？」と、花奈が身を乗り出して尋ねてくる。【う】

「いまみたいにみんなが笑ってくれてたらいい。それが一番救わ

れる」

「えー、そんなのダメだよ。なんかもつと④花奈にできることない？」

「ううん。本当にそれで充分⑤。もう花奈は力になってくれてるよ」

十和は顔をほころばせたが、花奈はあきらかに不服そうで、母は呆れた⑥とも、感心したともいえない表情で口をすぼめている。

「とりあえずいまは自分の直感を信じてみる。行けるところまでは行ってみるから、ヤバくなったらまたみなでお願いします」

そんな自分の言葉を証明するように、十和はさらに気合を入れて勉強に取り組んだ。【え】

とくに花奈はなんとか十和の力になろうとしてくれた。

「いまのお姉ちゃん、すごくカッコいいよ。私、めちゃくちゃ憧れる。大好きだよ、お姉ちゃん」

そんなカワイイことを口にした上で、花奈は「お姉ちゃんの受験が終わるまではお母さんたちの部屋で寝る」と言い出した。自分がいると勉強の邪魔になる⑦というのである。

動かしていたシャーペンを止め、十和は振り返った。いつになく真剣な目で花奈がじつとこちらを見ている。

「なんでそんなこと言うの？ え、寝にくい？ 私、邪魔？」と、十和はわざとおどけた調子で質問した。

花奈はぶんぶん⑧と首を振った。

「違うよ。私が邪魔なんじゃないかって」

「全然邪魔じゃないよ。むしろ助かってる。花奈の寝息を聞きながら勉強していると落ち着くんだよ」

「そんなのウソだよ」

「ホントだよ。なんか一人じゃないって思えるっていうか。おか

げで全然さみしくない。だから部屋を替えるとか言わないでよ」

そう微笑みながらも、十和は胸が締めつけられた。もし……、

本当に万が一これから順調に成績が伸びていって、自分の望む未来が拓けるのだとしたら、花奈と一緒に過ごせなくなるのだ。二人が同じ部屋で過ごせる時間はあとわずかしかない。

花奈もきつと同じことを感じ取ったのだろう。

⑤「お姉ちゃん、大好きだよ」と小さな声で繰り返し、懸命に涙を拭いながら十和にしなだれかかっていた。

父に与えられたノルマをこなすように、十和は⑥(注2)と勉強を続けた。

基本的には夏休みに近いスケジュールではあったものの、⑥家て取り組む科目に多少の変更があった。

具体的には算数の時間が少し削られて、国語対策に時間が割かれるようになったのだ。

「国語ってセンスで解くものと思われすぎなどがあるけどさ。いや、僕もそう思っていたんだけど、とくに星蘭は対策する価値のある問題を出してくる。やっぱり十和ちゃんの得点源になると思う」

父はどこでそういった情報を得ているのだろう。十和も時間があれば星蘭受験を経験したどこかの親のブログや、掲示板の書き込みなんかを見ているけれど、父の得る情報はもつと的確で、実践的だ。

父は十和に⑦古いエッセイと詩を読むことも提案してきた。

「最初は頭に入らなくてもいい。読みにくい文体かもしれないけど、その一文、その一ブロックで筆者が何を読者に伝えようとし

ているのか。意識しながら読んでみて」

「それはいいんだけど、なんの本を読んだらいい？」

「それは僕が図書館でちゃんと選んで借りてくる。学校の休み時間でもいいし、塾の空き時間でも、家でのちょっとした時間でもいい。あまり長い本は借りてこないようにするから、可能な限り、一週間で読み切るようにしてほしい」

現状でもすでに空き時間などないほどスケジュールが組まれている。そのことに對する不安はあったし、はじめは父の借りてくるとの本来読みにくくて、頭に入ってこなかった。

それでもなんとか三冊ほど読み切った頃から、古い本に目を通すことがそれほど苦じゃなくなった。

まだこんな日常の中に余白があったのかと思うほど、気づいたときには本を読むことが生活のリズムになっている。それどころか貴重な息抜きの時間として機能し始めた。

「私、この人の文章好きかも」

父に何冊目かの本を返すとき、ポツリと言ったことがある。父は意外そうにしたが、すぐに⑧合点がいったようにうなずいた。

「うん、いいよね。僕も好きだよ。この人はもともとテレビドラマの脚本で有名になった人なんだけど、小説も書いたし、こうした素晴らしい随筆もたくさん残している。多才な人だったんだろ
うね」

「ふーん。そうなんだ」とささやいた十和をやさしく見つめ、父は言葉を連ねた。

「十和ちゃん、合ってるかもしれないね」

「何が？」

「将来、文章を書く仕事に合ってるかもしれないよ。君にはお母

さんに似て周囲を観察する目があるし、お母さんにはない、もちろん僕にもない繊細さがある。十和ちゃん、まわりの目が気になつて仕方がないでしょう？」

「それは、まあ」

「友だちもみんなそうだと思ってるかもしれないけど、意外とそんなことないよ。そして十和ちゃんがしんどいと思ってる、悪く言えばその自意識過剰なところは、物書きという仕事には必要な特性じゃないかと僕は思う」

父はめずらしくキツパリとした口調で続けた。

「このエッセイを書いた人だって、絶対に神経過敏だったはずだよ。じゃなきゃ、こんな繊細な文章を書けるはずがない。十和ちゃんが書いた長い文章を、いつか僕は読んでみたいな」

そんな父の声を聞き流しながら、十和は手に持った本の表紙をじつと見つめた。

文章を書く仕事なんて考えたこともなかったけれど、星蘭と出会った日と同じように温かい気持ちで胸の中に広がった。

（早見和真『問題。以下の文章を読んで、

家族の幸せの形を答えなさい』）

※（注1）ゾーン＝集中しきって感覚がとぎすまされた状態。

（注2）肅々と＝集中して着実に。

問1 — ①「そんな気持ち」とはどのような気持ちか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ ういた時間を勉強にあてるために、理由をつけて学校を休もうとする気持ち。

い 勉強時間を充実させるには、学校で積極的に学ばなければならぬという気持ち。

う 勉強すればするほど時間が足りないように感じ、学校が再開後は特にあせる気持ち。

え 学校が再開されたことで、勉強時間がいくらあっても足りないという不安がつのる気持ち。

問2 — ②「こういうこと」とあるが、どういうことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 本来つらいはずの勉強があまりつらく感じなくなると、具体的な目標がみつかるということ。

い 目標を持つことによって、目標のないときは比べようがないほど集中力が高まるということ。

う 目標を持つことによって、それまで好きでなかった学校がいきなり好きになれるということ。

え 目標を持つことによって、そのつもりがなくても自然にいい子ちゃんになっていくということ。

問3 本文から、次の一文がぬけている。本文中にある【え】のうち、戻す場所として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

それに応えるように、家族もみんな本当に協力的だった。

問4 — ③「素直な気持ち」とあるが、十和の素直な気持ちとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 受験勉強はつらく苦しいときでも、いつでも笑顔ですごしていたい。

い 受験勉強でつかれたときは、息抜きに笑顔になれるような時間を作りたい。

う 受験勉強に嫌気がさしたときは、家族みんなと笑い合うことで気分転換したい。

え 受験勉強が限界になったときは、家族みんなに笑顔で寄りそってほしい。

問5 — ④「花奈にできること」とあるが、十和の受験勉強に協力するために、花奈は具体的にはどのようなことを提案したのか。次の文の□にあてはまる言葉を、本文中から二十一字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

※十和の□こと。

問6 — ⑤ 『お姉ちゃん、……かかってきた』とあるが、こ

のときの様子から十和が感じ取ったのは、花奈のどのような
気持ちか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 十和の受験に協力したいが何をすればよいかよくわからず、
力になれないことがふがいない気持ち。

い 十和の受験は花奈との共同作業でもあることに気づき、姉
のことを精一杯応援しようとする気持ち。

う 十和の受験がうまくいけば、同じ部屋で一緒に過ごせるの
はあとわずかであることを悲しむ気持ち。

え 十和の受験勉強の邪魔になっていると感じているが、素直
に謝ることができないことを恥じる気持ち。

問7 — ⑥ 「家で取り組む科目に多少の変更があった」とある
が、その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答
えなさい。

あ 算数はあまり十和の得点源にできそうになく、むしろ国語
対策に重点を置いて国語で点を取ることを考えた方が、合
格の可能性が上がりそうだと考えられたから。

い 国語の問題はセンスによって解くものだと考えていたが、
父が得た情報から、星蘭の入試では国語の問題も対策次第
で十分に得点源にできると判断されたから。

う 十和には国語のセンスがないため、国語で点をとることは
早々にあきらめていたが、実際は対策さえすればセンスが
なくても解けるレベルの出題だとわかったから。

え 父親が得た情報によって、古いエッセイと詩を読んでおけ
ば国語で点を取ることができるとわかり、苦手な算数に時
間を割くよりも確実な得点源になると期待できたから。

問8 — ⑦ 「古いエッセイと詩を読むこと」とあるが、父から
提案された読書は十和にとってどのようなものであったか。
あてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

あ はじめのうちは、父からすすめられる本の内容がよく理解
できなかった。

い 古い本を読むことはいつまでたっても苦痛だったが、受験
のためとこらえて読み続けた。

う 受験勉強で毎日いそがしかったが、本を読むための時間を
確保することはできた。

え 読んだ本の中で、十和が気に入るような文章を書く作家が
見つかることがあった。

問9 — ⑧ 「合点がいったように」の意味として最も適切なも
のを後から選び、記号で答えなさい。

あ 納得したように

い あいづちを打つように

う 非常に満足したように

え 半信半疑のように

問10 本文中で描^{えが}かれて^るいる十和の父の人物像の説明として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 十和の受験に家族のだれよりも真剣に取り組んでおり、きちんと計画を立てて厳しくやりとげさせようとする、教育熱心な人物。

い 十和の願いなのでしぶしぶ受験には協力しているが、できれば息抜きをしながらうまくやってほしいと願う、心配性の人物。

う 十和の気持ちに敏感^{びんかん}で、本人が希望や期待を口に出す前に見抜いて常にはつきりとした言動で感^{かん}覚的な助力ができる、たよりになる人物。

え 十和の受験で有能さを発揮しているが、基本的には父親として娘^{むすめ}を案^{あん}じたり将来に思いをはせたりする、子ども思いの人物。

問11 あるクラスで、国語の時間に本文の内容について話し合った。次に示すのは、本文に登場する「十和」と彼女^{かのじょ}の家族たちについて話し合っている生徒たちの様子である。本文の内容をふまえて、X・Y・Zにあてはまる言葉を、X・Yはそれぞれの()内の字数指定にしたがって本文中からぬき出し、Zは後から選び、記号で答えなさい。

Aさん 十和が大阪行きをあきらめた場面に「いつかのキャンプのときは意味合いが違^{ちが}う」とあったね。十和が土壇場でやめたことは、大阪行きの前にもあったのかな。「意味合いが違^{ちが}う」とはどういうことだろう。

Bさん そのキャンプのときは、最初から行きたくなかったとか、特別な事情とかで、今回のように素直に謝っていないんじゃないかな。

Cさん 今回は時間が惜しいという十和の勝手な理由で行かないことにしたので、X(十三字)「う気持ちで素直に謝ったんだよ。」

Bさん 面白いのは、花奈とお母さんがこうなると予想していたことだね。お父さんは、十和のことをちゃんと理解していたのかな。

Cさん もちろんそうだよ。十和の家族は、十和のことをよく思いやっているよね。お父さんも十和のために受験に協力し、本の話をしているときには十和をやさしく見つめながら、十和が書いた文章をY(十二字)「う」と言っているんだよね。

Aさん お父さんの言葉を聞き流していた十和だけど、私は最後の一文から、十和がZように感じたよ。

あ 今後^{こ今後}もこの著者の本を愛読していききたいと思っている
い この本を書いた著者の先生に会ってみたいと考えている
う 文章を書く仕事に対して前向きな印象を抱^{いだ}いている
え 何が何でも文章を書く仕事につかなければと思っている

三 次の各問いに答えなさい。

問1 次の——線部のカタカナを漢字に直して書き、漢字は読みをひらがなで書いて答えなさい。

- ① 旅行で自宅をルスにする。
- ② 日本の要人をゴエイする。
- ③ 足首に包帯をマク。
- ④ 様々なものが混在する。
- ⑤ 汽笛を鳴らす。
- ⑥ 額のあせをぬぐう。

問2 次の各語が対義語（意味が反対の言葉）の組み合わせになるように、☐に入る漢字一字を書きなさい。

- | | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| ④ | ③ | ② | ① |
| 需要 | 勝利 | 許可 | 美点 |
| ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| <input type="checkbox"/> 給 | <input type="checkbox"/> 北 | <input type="checkbox"/> 止 | <input type="checkbox"/> 点 |

四 次の各問いに答えなさい。

問1 ☐にあてはまる体の一部を表す漢字を書き、語句を完成させなさい。また、その意味を後から選び、記号で答えなさい。

- ① ☐をこまねく
- ② 二の☐をふむ

あ うまく処理できずにあきらめることのとえ。
 い まちがいやあやまちをくり返してしまうことのとえ。
 う 始めかけた物事をためらってしまうことのとえ。
 え 何もしないでただ見ているだけのことのとえ。
 お 気分がかわらずに関係がうまくいかないことのとえ。
 か 言いにくいことでもはっきり言うことのとえ。

問2 次の①～⑤の四字熟語の中で、誤った字をふくむものの組み合わせとして適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ① 温古知新 | ② 宏大無辺 | ③ 自画自賛 |
| ④ 公明正大 | ⑤ 短刀直入 | |
| あ ①と② | い ②と③ | う ③と④ |
| え ④と⑤ | お ①と⑤ | か ②と④ |

問3 次の各文中の□にあてはまる言葉を後から選び、記号で答えなさい。

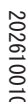
- ① 大会に向けて必死に練習した。□、決勝戦でおしくもやぶれた。
- ② 今日は日曜だが家にいようと思う。□、かぜを引いたからだ。
- ③ 昨日、私がいつしよに美術館へ行ったのは、私の父の兄、□おじにあたる人だ。
- ④ 新しい部屋の壁紙は白、□薄茶色にしようと考えている。

あ だから い しかし う つまり
え なぜなら お あるいは

問4 次の①～⑤の各文について、文法や言葉の使い方が正しければ「あ」を、間違っていれば「い」を書きなさい。

- ① 長年行ってきた活動がいよいよ実を結ぶ。
- ② 兄は明日の試合に絶対出場するかもしれない。
- ③ 何度注意しても響かないならぬかにくぎだよ。
- ④ 彼はその質問にゆっくりと間髪をいれずに答えた。
- ⑤ この本からの学びは、友情は大切だと思った。

以上で問題は終わりです。



桃山学院中学校
プレテスト第一回

国語
解答用紙

受験番号					名前
P					
	①	①	①	①	
	②	②	②	②	
	③	③	③	③	
	④	④	④	④	
	⑤	⑤	⑤	⑤	
	⑥	⑥	⑥	⑥	
	⑦	⑦	⑦	⑦	
	⑧	⑧	⑧	⑧	
	⑨	⑨	⑨	⑨	

—										
問 11	問 10				問 8	問 7		問 5	問 3	問 1
①						Ⅱ	I	④		
②					問 9			⑦	問 4	
③								問 6		問 2
④										
	40	30								

[illegible]

三							
問 2		問 1					
③	①	⑥	⑤	④	③	②	①
					<		
④	②						

四							
問 4		問 3		問 2	問 1		
④	①	③	①		② 漢字	① 漢字	
⑤	②	④	②				
					記号	記号	
	③						

2026年度 入試向け
桃山学院中学校 プレテスト第1回 問題

算 数

【50分・150点】

注 意 事 項

- 1 問題は1ページから5ページまであります。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 円周率は、3.14とします。
- 4 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 5 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 6 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 7 「終了」の合図で鉛筆を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受 験 番 号					名 前
P					

1 次の にあてはまる数を答えなさい。

(1) $217 - (36 + 167) \times 17 \div 29 = \text{$

(2) $887 \times 9 - 197 \times 18 + 169 \times 27 = \text{$

(3) $\left(0.1 \div \text{} - \frac{2}{3}\right) \times 4.5 = \frac{6}{7}$

(4) $(12\text{時間}34\text{分}50\text{秒}) \div 7 = \text{時間分秒}$

2 次の問いに答えなさい。

(1) 兄が 1300 円、弟が 500 円のお金を持っています。お父さんから同じ金額をもらったので、兄の持っているお金が弟の持っているお金の 2 倍になりました。2 人がお父さんからもらった金額は何円ずつですか。

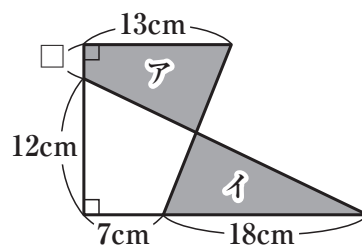
(2) 20 人のクラスでソフトボール投げの記録をとったところ、上位 12 人の記録の平均は 25m、下位 8 人の記録の平均は 15m でした。このクラス全体の記録の平均は何 m ですか。

(3) 1750 円で仕入れた品物に仕入れ値の 60% の利益を見込んで定価をつけ、定価の 25% 引きで売りました。利益は何円ですか。

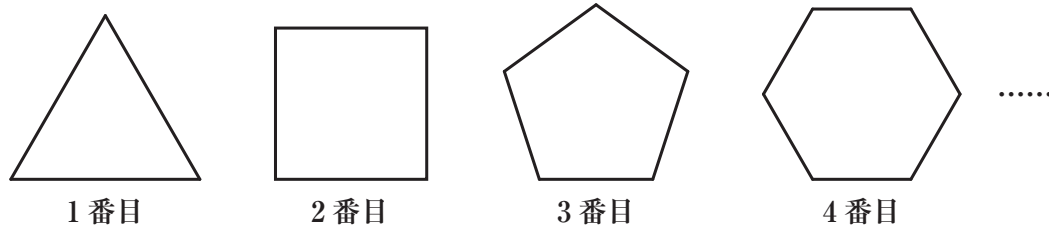
(4) 兄が分速 70m の速さで歩いて家を出発してから、15 分後に弟が家を出発して自転車に乗って分速 210m で追いかけてきました。弟が兄に追いつくのは家から何 m の地点ですか。

(5) 0, 1, 2, 2, 3 の 5 枚の数字のカードのうち、3 枚を使って 3 けたの整数をつくるとき、200 より大きい数は何通りできますか。

(6) 右の図は、台形と三角形を組み合わせたものです。アとイの部分の面積が等しいとき、の長さは何 cm ですか。



3 次のように正多角形を順にならべていきます。このとき、次の問いに答えなさい。



- (1) 5 番目の正多角形の対角線の本数は何本ですか。
- (2) 1 番目から 10 番目までの正多角形の内側の角の大きさをすべてたすと何度ですか。
- (3) 内側の角 1 つの大きさが整数になる正多角形は何個ありますか。

4 太郎さんは文房具店へ行き、ボールペン 16 本とえん筆 6 本を持っているお金でちょうど買うつもりでしたが、ボールペン 6 本とえん筆 22 本でもちょうど買えることに気づきました。このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) ボールペン 5 本分と同じ金額になるのは、えん筆何本分ですか。
- (2) 持っているお金ちょうどで買える買い方で、ボールペンとえん筆を合わせた本数をもっとも多くするには、それぞれ何本ずつ買えばよいですか。
- (3) 持っているお金でボールペンだけを 21 本買おうとすると 200 円不足するそうです。太郎さんが持っていたお金は何円ですか。

5 1 から N までの整数をすべてかける計算 $1 \times 2 \times 3 \times \cdots \times N$ の答えを $【N】$ とします。たとえば, $1 \times 2 \times 3 = 6$ なので $【3】=6$ です。このとき, 次の問いに答えなさい。

(1) $【20】 \div 【18】$ を計算した答えはいくつですか。

(2) $【30】$ は一の位から 0 が何個続きますか。

(3) $【125】 \div 【X】$ を計算した答えの一の位から 0 が 10 個続くとき, 考えられる X でもっとも大きい数はいくつですか。

6 水が入る容器と、容器に水を入れる 2 本の管 A, B があります。空の容器に水を入れていっぱいにするのに、A だけを使うと 60 分かかり、B だけを使うと 48 分かかります。また、容器に水が 30L 入った状態から A と B を同時に使って水を入れると、いっぱいになるのに 20 分かかります。このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) 空の容器に A と B を同時に使って水を入れると、いっぱいになるのに何分何秒かかりますか。
- (2) 容器の容積は何 L ですか。
- (3) 容器に水が 50L 入った状態から、A だけと B だけを合わせて 32 分使って水を入れるといっぱいになりました。A だけを使った時間は何分ですか。

以上で問題は終わりです。



202610030

2026年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回
算数 解答用紙

受験番号					名前
P	①	①	①	①	
	②	②	②	②	
	③	③	③	③	
	④	④	④	④	
	⑤	⑤	⑤	⑤	
	⑥	⑥	⑥	⑥	
	⑦	⑦	⑦	⑦	
	⑧	⑧	⑧	⑧	
	⑨	⑨	⑨	⑨	

1	(1)	(2)	(3)	(4)	時間 分 秒
---	-----	-----	-----	-----	--------

2	(1)	円	(2)	m
	(3)	円	(4)	m
	(5)	通り	(6)	cm

3	(1)	本	(2)	度
	(3)	個		

4	(1)	本分	(2)	ボールペン 本, えん筆 本
	(3)	円		

5	(1)	(2)	個
	(3)		

6	(1)	分 秒	(2)	L
	(3)	分		

合計
※

2026年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回

解答と配点

目 次

解 答

1 国語 (50分・150点) P. 1

2 算数 (50分・150点) P. 1

配 点 P. 2

解 答

国 語

- 一** 問1 知的好奇心 問2 う 問3 え 問4 本を売る場所が
問5 ④ え ⑦ い 問6 う
問7 I 本の話を経験にできる II 本を通じて、人と人に出会う
問8 あ 問9 う
問10 (例) 常連のお客さんが、読書会の「葉々社ブッククラブ」を立ち上げて運営
していること。[39字]
問11 ① い ② あ ③ あ ④ あ
- 二** 問1 あ 問2 い 問3 え 問4 え 問5 受験が終わ
問6 う 問7 い 問8 い 問9 あ 問10 え
問11 X 本当に申し訳なく思っている Y いつか僕は読んでみたいな
Z う
- 三** 問1 ① 留守 ② 護衛 ③ 巻(く)
④ こんざい ⑤ きてき ⑥ ひたい
問2 ① 欠(汚・弱) ② 禁 ③ 敗 ④ 供
- 四** 問1 ① 手(腕)・え ② 足・う 問2 お
問3 ① い ② え ③ う ④ お
問4 ① あ ② い ③ あ ④ い ⑤ い

算 数

- 1** (1) 98 (2) 9000 (3) $\frac{7}{60}$ (4) 1時間47分50秒
- 2** (1) 300円 (2) 21m (3) 350円 (4) 1575m
(5) 19通り (6) 3cm
- 3** (1) 14本 (2) 9900度 (3) 22個
- 4** (1) 8本分 (2) ボールペン 1本, えん筆 30本 (3) 3160円
- 5** (1) 380 (2) 7個 (3) 94
- 6** (1) 26分40秒 (2) 120L (3) 20分

配 点

国 語

一	問 1…4 点	問 2…2 点	問 3…4 点	合計 58 点
	問 4…4 点	問 5…各 4 点	問 6…2 点	
	問 7…各 4 点	問 8…4 点	問 9…4 点	
	問 10…10 点	問 11…各 2 点		
二	問 1…4 点	問 2…4 点	問 3…2 点	合計 48 点
	問 4…4 点	問 5…4 点	問 6…4 点	
	問 7…4 点	問 8…4 点	問 9…2 点	
	問 10…4 点	問 11…各 4 点		
三	各 2 点			合計 20 点
四	各 2 点 (問 1 各完答)			合計 24 点

算 数

1	各 8 点	合計 32 点
2	各 8 点	合計 48 点
3	(1)(2)各 5 点 (3)6 点	合計 16 点
4	各 6 点	合計 18 点
5	各 6 点	合計 18 点
6	各 6 点	合計 18 点

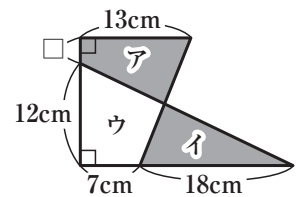
2026年度入試向け プレテスト第1回 解説

1 計算問題

- (1) $217 - (36 + 167) \times 17 \div 29 = 217 - 203 \div 29 \times 17 = 217 - 7 \times 17 = 217 - 119 = 98$
- (2) $887 \times 9 - 197 \times 18 + 169 \times 27 = 887 \times 9 - 197 \times 2 \times 9 + 169 \times 3 \times 9$
 $= 887 \times 9 - 394 \times 9 + 507 \times 9 = (887 - 394 + 507) \times 9 = 1000 \times 9 = 9000$
- (3) $0.1 \div \square - \frac{2}{3} = \frac{6}{7} \div 4.5 = \frac{4}{21}$ $0.1 \div \square = \frac{4}{21} + \frac{2}{3} = \frac{6}{7}$ $\square = 0.1 \div \frac{6}{7} = \frac{7}{60}$
- (4) $12\text{時間} \div 7 = 1\text{時間} \text{あまり} 5\text{時間}$ $5\text{時間}34\text{分} \div 7 = 334\text{分} \div 7 = 47\text{分} \text{あまり} 5\text{分}$
 $5\text{分}50\text{秒} \div 7 = 350\text{秒} \div 7 = 50\text{秒}$ よって、1時間47分50秒

2 小問集合

- (1) $1300 - 500 = 800$ (円)が弟の、 $2 - 1 = 1$ (倍) 弟は、 $800 \div 1 = 800$ (円)になったからもらった金額は、 $800 - 500 = 300$ (円)
- (2) 上位 12 人の合計は、 $25 \times 12 = 300$ (m) 下位 8 人の合計は、 $15 \times 8 = 120$ (m) 全体の合計は、 $300 + 120 = 420$ (m) クラス全体 20 人の平均は、 $420 \div 20 = 21$ (m)
- (3) 定価は、 $1750 \times (1 + 0.6) = 2800$ (円) 売り値は、 $2800 \times (1 - 0.25) = 2100$ (円)
 利益は、 $2100 - 1750 = 350$ (円)
- (4) 兄が 15 分間に進んだ道のりは、 $70 \times 15 = 1050$ (m)
 兄と弟は 1 分間に $210 - 70 = 140$ (m) 差が縮まるから、弟が出発後 $1050 \div 140 = 7.5$ (分) で追いつく。よって、 $210 \times 7.5 = 1575$ (m)
- (5) 百の位が 2 のとき、残った $\square 0$, $\square 1$, $\square 2$, $\square 3$ で十の位と一の位につくれる数は、 $4 \times 3 = 12$ (通り)
 百の位が 3 のとき、残った $\square 0$, $\square 1$, $\square 2$, $\square 2$ で十の位と一の位につくれる数のうち $\square 2$ を 1 枚以下でつくれる数は、 $3 \times 2 = 6$ (通り), $\square 2$ を 2 枚使ってつくれる数は 1 通り。
 $12 + 6 + 1 = 19$ (通り)
- (6) 右の図のように、台形と三角形が重なった部分をウとすると、
 アとイの面積が等しいことから、アとウを合わせた台形の面積と、
 イとウを合わせた三角形の面積が等しくなる。
 イとウを合わせた三角形の面積は、 $(7 + 18) \times 12 \div 2 = 150$ (cm^2)
 アとウを合わせた台形の面積は、 $(13 + 7) \times (\square + 12) \div 2 = (\square + 12) \times 10$
 $(\square + 12) \times 10 = 150$, $\square + 12 = 150 \div 10$, $\square + 12 = 15$, $\square = 15 - 12 = 3$ だから、3cm

**3** 正多角形

- (1) 5 番目の正多角形は、 $3 + (5 - 1) = 7$ より正七角形
 1 つの頂点から、 $7 - 3 = 4$ (本) ずつを 7 個の頂点から、 $4 \times 7 = 28$ (本) ひけるが 1 本につき 2 回ずつ数えているので、 $28 \div 2 = 14$ (本)
- (2) 1 番目の正三角形の内側の角の和が 180 度、2 番目の正方形の内側の角の和が 360 度、

3 番目の正五角形の内側の角の和が 540 度、…と 180 度ずつ増えて 10 番目の内側の角の和は、
 $180 + 180 \times (10 - 1) = 1800$ (度)

すべてたすと、 $180 + 360 + 540 + \dots + 1800 = (180 + 1800) \times 10 \div 2 = 9900$ (度)

- (3) 内側の角 1 つが整数になるのは外側の角 1 つが整数になるときで、外側の角の和 360 度を
 整数の範囲でわり切ることができる 360 の約数 24 個のうち 1 と 2 を除いた、 $24 - 2 = 22$ (個)

4 消去算

- (1) ボールペンを ㊦ 、えん筆を ㊧ とすると、 $\text{㊦} \times 16 + \text{㊧} \times 6 = \text{㊦} \times 6 + \text{㊧} \times 22$

$$\text{㊦} \times 10 = \text{㊧} \times 16, \text{㊦} \times 5 = \text{㊧} \times 8$$

よって、ボールペン 5 本分とえん筆 8 本分は同じ金額になる。

- (2) (1) より、えん筆の方が安いので、えん筆を多く買えばよいから、 $\text{㊦} \times 16 + \text{㊧} \times 6$ のうち、
 $\text{㊦} \times 15$ をえん筆にかえると、

$$\text{㊦} \times 16 + \text{㊧} \times 6 = \text{㊦} \times 1 + \text{㊦} \times 15 + \text{㊧} \times 6 = \text{㊦} \times 1 + \text{㊧} \times 24 + \text{㊧} \times 6 = \text{㊦} \times 1 + \text{㊧} \times 30$$

よって、ボールペン 1 本、えん筆 30 本

- (3) $\text{㊦} \times 21 = \text{㊦} \times 16 + \text{㊧} \times 6 + 200$, $\text{㊦} \times 5 = \text{㊧} \times 6 + 200$, $\text{㊧} \times 8 = \text{㊧} \times 6 + 200$,

$$\text{㊧} \times 2 = 200 \quad \text{よって、えん筆 1 本は、} 200 \div 2 = 100 \text{ (円)}$$

$$\text{ボールペン 1 本は、} 100 \times 8 \div 5 = 160 \text{ (円)}$$

$$\text{したがって、持っていたお金は、} 160 \times 16 + 100 \times 6 = 3160 \text{ (円)}$$

5 数の性質

$$(1) [20] \div [18] = \frac{1 \times 2 \times 3 \times \dots \times 18 \times 19 \times 20}{1 \times 2 \times 3 \times \dots \times 18} = 19 \times 20 = 380$$

- (2) 一の位から続く 0 の個数は、その数を 10 でわり切ることのできる回数と等しく、10 は 2
 と 5 の積である。【30】は 5 で、 $30 \div 5 = 6$ (回)、さらに、 $30 \div 25 = 1$ あまり 5 で 1 回、合わ
 せて、 $6 + 1 = 7$ (回) わり切れ、2 でわり切れる回数はこれより多いから、10 で 7 回わり切れる。
 よって、7 個

- (3) $125 \div 5 = 25$, $25 \div 5 = 5$, $5 \div 5 = 1$ より 【125】は 10 で、 $25 + 5 + 1 = 31$ (回) わり切れるから、
 【X】は 10 で、 $31 - 10 = 21$ (回) わり切れる。【X】は、10 で 12 回わり切れる 【50】より、
 $21 - 12 = 9$ (回) 多くわり切れ、75 は 5 で 2 回わり切れるから、 $50 + 5 \times (9 - 1) = 90$ より 【90】
 から 【94】は 10 で 21 回わり切れ、【95】は 10 で 22 回わり切れる。よって、94

6 割合と仕事の文章題

- (1) 容器を基準としたときのそれぞれの管から 1 分間に入る水の量は A が $\frac{1}{60}$, B が $\frac{1}{48}$,
 同時に使うと、 $\frac{1}{60} + \frac{1}{48} = \frac{3}{80}$ かかる時間は、 $1 \div \frac{3}{80} = \frac{80}{3} = 26\frac{2}{3}$ (分) $\frac{2}{3}$ 分は、 $60 \times \frac{2}{3} = 40$ (秒)
 よって、26 分 40 秒

- (2) 30L は容器の、 $1 - \frac{3}{80} \times 20 = \frac{1}{4}$ 容積は、 $30 \div \frac{1}{4} = 120$ (L)

- (3) A は毎分、 $120 \div 60 = 2$ (L), B は毎分、 $120 \div 48 = 2.5$ (L) で合わせて 32 分で $120 - 50 = 70$ (L)
 入れる。32 分すべて B だけで入れると、 $2.5 \times 32 = 80$ (L)
 よって、A だけを使った時間は、 $(80 - 70) \div (2.5 - 2) = 20$ (分)

一 説明的文章

- 問 1 空欄^{くうらん}にあてはまる語を本文中から探す問題です。①段落では、「本を読む人は『必要』と答えるだろうし、本を読まない人は『不必要』と回答するだろう」とあるだけで、筆者自身がどのように考えているかについては、まだ述べられていません。読み進めていくと、⑤段落の初めて「私は当然、街に本屋は必要だと思っている」と筆者自身の回答が述べられており、その直後の「知的^{こうきしん}好奇心をこれほどまでに満たしてくれる場所はほかにはない」がその理由になっています。「満たしてくれる場所」という空欄後にある言葉がここで出てきています。何を「満たしてくれる」のかを確かめると、「知的^{こうきしん}好奇心を」とあります。したがって、空欄にあてはまる言葉は、「知的^{こうきしん}好奇心」ということになります。
- 問 2 空欄にあてはまる言葉を選ぶ問題です。この空欄は、あとに「……が多いからだ」と続いています。したがって、空欄前の「本屋がどんどんつぶれている」理由について、空欄にあてはまるものが「多い」せいだと説明していることになります。「①段落の文脈をふまえた上で」とあるので、①段落の中で、「本屋がどんどんつぶれている」理由を確かめると、本を必要としない人の割合が必要とする人の割合より多いためと考えられます。うがこれに合っています。
- 問 3 内容理解の問題です。「そう」という指示語の内容^{かくにん}を確認すると、「雑誌は……安定した収益につながっていた」を指しています。「現在はそうではない」というのですから、「雑誌」が「安定した収益」につながっていないということだとわかります。また、③段落にはこれについて、「書籍^{しよせき}の売上減少とは比較^{ひかく}にならないぐらい、右肩^{みぎかた}が下がり続けている」とあり、雑誌の売上減少が書籍よりも深刻であるということが述べられています。えがこれらの内容にあてはまります。
- 問 4 空欄にあてはまる語を本文中から探す問題です。空欄の前後を確認すると、「本屋が閉店してなくなると、……ことになる」なので、本屋の閉店によってどうなるかを、指定された④段落から探すことになります。すると、「大手版元の公式アカウントなんか……コメントをして」「怒^{いか}りが湧^わく」などのことも発生していますが、最も直接的な結果としては「本屋がなくなればなくなるほど、本を売る場所が減り、読者との出会いの場も消滅する」という部分があてはまります。このことはさらに「本屋の減少が最終的には大手版元にも……不利益^{ふりえき}となって戻^{もど}ってくる」ということにもつながりますが、これも閉店の直接的な結果というより、版元への影響^{えいきよう}という間接的な結果であり、二十四字という指定でぬき出すこともできないので、「本を売る場所が」が最初の七字になる部分が適切です。
- 問 5 語句の本文中での意味を答える問題です。
- ④「思いを馳^はせる」は、前後から版元が本屋の閉店の原因や可能だったかもしれない対策を考えることを指しているのので、「想像をめぐらせる」行動にあたり、えが適切です。「馳せる」には、「そこまで行き着かせる」という意味がありますが、あやうのように、自分のあやまちを認めたりそれを謝罪したりという意味で使われることはありません。

⑦「ハードルが高い」は、前の「たった一駅を移動するのが年配の人たちにとっては」という内容が移動の困難さを示しているので、いが適切です。「ハードル」とは障害のことを表しており、年配の人にとって、書店に行くために「一駅を移動する」ことは大きな障害となるという文脈になっています。

問6 空欄にあてはまる言葉を選ぶ問題です。空欄の前後を確認すると、「本屋の減少が……大手版元にも……不利益となって戻ってくる」とあり、版元の掛け率の悪さが本屋の閉店を招き、その結果が版元自身に悪影響として戻ることを示します。選択肢はいずれも「……のように」というたとえの表現なので、「戻る」ことをたとえるのに適切なものを選ぶと、「ブーメラン」という投げたものが戻ってくるものにたとえている選択肢のうが適切です。あの「紙飛行機」は投げたものが戻らずに落ちることがほとんどであり、いの「片道切符」は戻らないものです。えの「打ち上げ花火」も何かが戻るわけではありません。

問7 空欄にあてはまる語を本文中から探す問題です。空欄の前後から、本屋の役割があてはまることがわかりますが、「本を売る以外」の役割であることに注意します。指定された⑦段落から本を売る以外の本屋の役割を探すと、「本を通じて、人と人とが出会う」「本の話気軽にできる場」が見つかります。「仕事から離れた場所で本の話をするのは……なかなか機会がない」「街の本屋がそこに存在する意義はある」とあり、本屋が本を通じた人と人との出会いの場であり、気軽に本の話ができる場所であると述べています。Ⅰは十字という指定であり、あとに「場所」が続くので、終わりの「場」を省いた「本の話気軽にできる」、Ⅱは十四字なので「本を通じて、人と人とが出会う」がそのままあてはまります。

問8 内容理解の問題です。「それ」が指す内容を確認すると、「さまざまな属性のお客さんが来店する」ことだとわかります。「それがいい」理由は、直後で「いろいろな特徴をもつお客さんが出たり入ったりするところが本屋の魅力だと感じている」からだと言われています。多様な客が集まることを良いこととして評価しているので、あが正解です。いは、「派手な原色」「薄い色」「薄い色」という「多様」の表現を服の色だと誤読しており、適切ではありません。うはアマゾン知らない人に限定、えは読書欲の旺盛な年配者に限定していて、一部の例に過ぎないので、適切ではありません。

問9 内容理解の問題です。直後から述べられている方法をとらえます。「本以外の商品……を販売してもいい。お客さんが求めるなら野菜でも果物でもベーグルでもドーナツでも何だって売ればいい」「大切なことは地域で生きる本好きの人たちのために、できるだけ長く本屋を続けること」とあり、客の需要に応じた商品を販売し、持続可能な経営を目指す方法であることがわかります。これにあてはまるのは、うです。あは、食料品を「書籍よりも多く」とは書かれていないので、適切ではありません。いは、情報発信についてはふれられていませんし、これに限定しているので、適切ではありません。えは、お客さんとの協力については述べられていましたが、それは「できるだけ長く本屋を続ける」ために「知恵を出し続けること」や、「街を生きる人たちのために」という「読書会」などの話であり、直接的な「売上を伸ばす」こととしては特に述べられていないので、適切ではありません。

問10 内容を理解し、設問の指示に従って記述する問題です。「お客さんの力が発揮された例」なので、⑦段落の「ふたりの常連が立ち上げてくれた『葉々社ブッククラブ』」という「読書

会」のことになります。ただし、条件に「『運営』という言葉必ず使って」とあるので、「運営は常連に任せている」という部分を利用して、「『葉々社ブッククラブ』という読書会を立ち上げた」という内容を「常連のお客さんが……運営していること。」などのようにまとめていくとよいでしょう。

【お客さんとは】 ふたりの常連のお客さん

【力が発揮されたこととは】 「葉々社ブッククラブ」という読書会を立ち上げたこと

【指定語句】 運営

例：※常連のお客さんが、読書会の「葉々社ブッククラブ」を立ち上げて運営していること。

- 問 11 本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を考える問題です。①～④の文が、それぞれ本文中のどの段落の内容に対応しているかを探して考えていくとよいでしょう。 ①は、①段落の内容に対応しています。本文中には、「日常的に本を読む習慣のある人は百人中、二、三人」とあり、読書人口が増えているとは書かれていないため、①の「年々増えている」は合いません。 ②は、④段落後半の内容に合っています。筆者は大手版元の掛け率の悪さが本屋の経営に良くない影響を与え、店員の収入の少なさにつながると批判し、「掛け率を改善しないと」と述べ、改善を望んでいます。 ③は、⑤段落の最後の三つの文の内容に合っています。 ④は、⑧段落の「街に根付くということは……街を生きる人たちのために存在する」という内容と合っています。

文学的文章

- 問 1 登場人物の心情理解の問題です。「そんな」は前に書かれた「いままでの^{とわ}十和だったら、なんのかんの理由をつけて学校を休もうとしただろう」を指します。さらに前からは、「学校を休もう」とするのは「時間はいくらあっても足りない」という気持ちからくることもわかります。学校に行っている時間がおしくて、その間に家で勉強したいのです。これにあてはまるのは、あです。いは、学校で積極的に学ぼうとしているのですから休もうとする気持ちと合わず、適切ではありません。うとえは、時間が足りないと感じる気持ちは述べられていますが、学校を休むという気持ちがないので、適切ではありません。
- 問 2 内容理解の問題です。十和が「ゾーン」のようなものに足を踏み入れて、勉強が「つらいと感じない」気持ちになったということを述べています。「ゾーン」については、注に「集中しきって感覚がとぎすまされた状態」とあることを確認しましょう。ここから、十和が目標を持つことによって集中力が高まり、勉強が苦にならない状態になったことがわかります。これにあてはまるのは、いです。あは、「本来つらいはずの勉強があまりつらく感じなくなると、具体的な目標が見つかる」とありますが、本文では、目標を持つことによってゾーンに入っているのですから、理由と結果が逆になってしまっており、適切ではありません。うは、「学校がいきなり好きになれる」とは述べられていないので、適切ではありません。えは、本文の「いい子ちゃんを気取っているつもりはない」と合わないので、適切ではありません。
- 問 3 ぬけ落ちた文をどこに^{もと}戻すかを選ぶ、文脈理解の問題です。ぬけ落ちた文が「それ」で始まっており、この「それ」が家族の協力的な態度につながっていることに注意しましょう。【あ】

と【い】の前後には、家族の協力的な態度が述べられていないので、適切ではありません。【う】は、「それ」が指すのが「花奈が身を乗り出して尋ねてくる」になり、それに応じて家族が協力的になるという内容とつながりません。【え】は、「それ」が指すのが十和が「さらに気合を入れて勉強に取り組んだ」になり、それに応じて家族が協力的になって、「とくに花奈は……」という花奈の協力的な態度につながっています。したがって、【え】が正解です。

問4 登場人物の心情理解の問題です。「口にした」とあるのですから、直後の十和の言った「いつか本当にパンクする日が来たら、そのときはまたみんなで支えてよ」という、受験で限界になったときに家族に求めることが、この「素直な気持ち」を表しています。さらに、この言葉に対して花奈が「支えるって何をしたらいいの？」と尋ねると、十和は「みんなで笑ってくれてたらいい。それが一番救われる」と言っています。これらのことから、えが正解です。

問5 内容理解の問題です。花奈は具体的にはどのようなことを提案したのかという問いなので、実際に本文中で花奈が何をすると行ったかを確認すると、花奈が「お姉ちゃんの受験が終わるまではお母さんたちの部屋で寝る」と言った部分が当てはまります。二十一字でぬき出すことと、空欄の直前に「十和の」とあることから、「お姉ちゃんの」は省くことになるので、そのあとの五字「受験が終わ」が正解です。

問6 登場人物の心情理解の問題です。直前で、十和が「花奈もきっと同じことを感じ取ったのだろう」と思っていることに着目しましょう。「同じこと」とは、その前にある「これから順調に成績が伸びていって……花奈と一緒に過ごせなくなるのだ。二人が同じ部屋で過ごせる時間はあとわずかしかない」という部分を指しています。これは、受験が成功することによって姉妹が離れて暮らすことになってしまうという悲しさを表現する部分です。したがって、うが正解です。あ、い、えは、いずれも十和の感じ取った思いにふれていないので、適切ではありません。

問7 理由をとらえる問題です。まず、直後で科目の変更についてくわしい内容が示された後、父が理由を説明しています。ここから、「国語ってセンスで解くものと思われすぎ」「星蘭は対策する価値のある問題を出してくる」「十和ちゃんの得点源になる」という父の判断によって、算数の時間を削って国語対策に時間を割いたことがわかります。これに当てはまるのは、いです。あは、算数が十和の得点源にできないとは書かれていないので、適切ではありません。うは、十和に国語のセンスがなくて国語はあきらめたということは書かれていません。また、本文の「対策する価値のある問題」という表現からは、センスではなく対策を立ててみかける思考力などで解くという意味が読み取れますが、「対策さえすればセンスがなくても解けるレベル」というレベルの低い問題のように表現されているところからも、誤りです。えは、古いエッセイと詩は国語の対策の一つとは言えますが、「読んでおけば国語で点を取ることができる」や「苦手な算数に時間を割くよりも確実な得点源になる」が本文の内容とは合わず、適切ではありません。

問8 登場人物の心情理解の問題です。「当てはまらないもの」を選ぶことに注意しましょう。「はじめは……読みにくくて、頭に入ってこなかった」「三冊ほど読み切った頃から……苦じゃなくなった」「本を読むことが生活のリズムになっている」とあり、「好きかも」と思えるよ

うな気に入る作家も見つかったことも述べられています。したがって、**あ**の「はじめのうちは……理解できなかった」、**う**の「本を読むための時間を確保することはできた」、**え**の「気に入るような文章を書く作家が見つかることがあった」は、それぞれ適切です。**い**の「いつまでたっても苦痛だった」が合わないので、**い**が正解です。

問9 語句の意味と登場人物の心情に関する問題です。十和が「この人の文章好きかも」と言い、父が「意外そうにしたが、すぐに合点^{がてん}がいったようにうなずいた」とあります。これは、父が十和の好みを理解し、納得^{なっとく}した様子を指しますから、**あ**が正解です。**い**の「あいづちを打つ」は、相手の話にあわせて受け答えをすることなので、「あいづちを打つようにうなずいた」というのは変な表現です。**う**は「非常に満足」とあり、十和の「この人の文章好きかも」という言葉が父にとって非常に喜ばしいものだったということを示していますが、「合点」にそうした心情を示す意味がないことと、続く父の「うん、いいよね。僕^{ぼく}も好きだよ」という言葉がそれほど強い感情を表現してはいないことから、適切ではありません。**え**の「半信半疑」は「合点」の意味とは逆なので、適切ではありません。

問10 登場人物の人物像の理解の問題です。十和の父は星蘭の受験情報を的確に提供し、国語対策や本の選定で協力します。また、十和の繊細^{せんさい}さを案じ、将来について語る様子がえがられます。これらをまとめると、受験で有能^{むすめ}さを発揮しつつ、娘を案じる人物ということになるので、**え**が正解です。**あ**は、「厳しく」は強調されていないので、適切ではありません。**い**は、「しぶしぶ受験には協力している」が、**う**は、「希望や期待を口に出す前に見抜いて」や「感覚的な助力」が本文の内容と合わないので、それぞれ適切ではありません。

問11 内容理解の問題です。Cさんは、「勝手な理由で行かないことにした」のだから十和は素直に謝^{あやま}ったと話していますから、**X**には十和が素直に謝ることになったときの思いがあてはまります。この部分は本文では、「本当に申し訳なく思っているという旨^{むね}を伝える」と表現されているので、**X**には、「本当に申し訳なく思っている」があてはまります。**Y**は、十和が書いた文章のことを想像した父の言った言葉ですから、「十和ちゃんが書いた長い文章を、いつか僕は読んでみたいな」が適切で、十二字でぬき出すので、「いつか僕は読んでみたいな」が正解です。**Z**は、最後の一文からわかる十和の思いなので、「文章を書く仕事なんて考えたこともなかったけれど……温かい気持ちが胸の中に広がった」に着目します。自分の将来の仕事として「文章を書く仕事」のことを思い、「温かい気持ち」になっているので、自分の将来の仕事として「文章を書く仕事」にふれていないことから、**あ**といは適切ではありません。**え**は、自分の将来の仕事として「文章を書く仕事」のことを考えていますが、「何が何でも……つかなければ」という義務的で強制力を感じさせる表現は、「温かい気持ち」と合わないので、適切ではありません。

㊦ 漢字・語句

問1 漢字の読み書きの問題です。①「外出して家にいないこと」という意味の「留守」です。②「身近に付きそって守ること（人）」という意味の「護衛」です。③「もののまわりにからみつける」という意味の「巻（く）」です。「巻」の音読みは「カン」で、「巻末」「圧巻^{じゅくご}」などの熟語に用います。④「混在」は「いくつかのものがまざりあっていること」と

- いう意味です。⑤「汽笛」は「蒸気の力で音を鳴らす笛」という意味です。船などで合図として用いられます。⑥「額」の音読みは「ガク」で、「金額」などの熟語に用います。
- 問2 対義語の問題です。①「美点⇔欠点」という対義語です。「汚点^{おてん}」や「弱点」も対義的な言葉です。②「許可⇔禁止」という対義語です。③「勝利⇔敗北」という対義語です。④「需要⇔供給^{じゅうぎょう}」という対義語です。

四 語句・言葉のきまり

- 問1 慣用句の知識に関する問題です。慣用句とは、二語以上の単語が結びつき、もとの単語の意味とはちがった意味を持つようになった言葉のことです。慣用句には、体の一部を使ったり、身近な動物になぞらえたりするものがたくさんあります。日常生活の中で見たり聞いたりした慣用句があったら、慣用句の本や辞書で意味を覚えましょう。①は、「手をこまねく」で、「何もしないでただ見ているだけのこと」という意味です。「腕^{うで}をこまねく」も同義の言葉です。「手」を使った慣用句には、他に「手を焼く」「手をぬく」「手を貸す」などもあります。②は、「二の足をふむ」で、「始めかけた物事をためらってしまうこと」という意味です。
- 問2 四字熟語の知識の問題です。①「昔のことをよく調べて、そこから現在に生かすことのできる知恵^{ちえ}を得ること」という意味の「オンコチシン」は、「温故^{うこ}知新」と書きます。⑤「前置きをせずに、いきなり本題に入ること」という意味の「タントウチョクニユウ」は、「單刀直入」と書きます。したがって、①と⑤が誤った字をふくむので、正解は**お**です。
- 問3 「接続語（つなぎ言葉）」の問題です。どの「接続語（つなぎ言葉）」が適切かは、前後の関係から判断していきます。①「大会に向けて必死に練習した」ので、本来ならば、「勝てた」はずですが、それに反して、「おしくもやぶれた」ので、い「しかし」があてはまります。②前の「今日は日曜だが家にいようと思う」ということの原因となる「かぜを引いたからだ」が、後に続いているので、え「なぜなら」があてはまります。③前の「私の父の兄」を、後で「おじ」と言いかえて説明し直しているので、う「つまり」があてはまります。④前の「白」と後の「薄茶色^{うすちや}」のどちらかを選ぶので、お「あるいは」があてはまります。
- 問4 日本語全般に関する問題です。
- ①「実を結ぶ」とは、「努力の結果が表れて成功する」という意味の慣用句です。したがって、「長年行ってきた活動がいよいよ実を結ぶ。」は、正しい日本語です。
- ②「かもしれない」は絶対かどうかかわからないときに使う表現なので、「絶対出場するかもしれない」と「絶対」といっしょに使うのは誤りです。
- ③「ぬかにくぎ」とは、「手ごたえがなく、効果が感じられないこと」という意味のことわざです。したがって、「何度注意しても響^{ひび}かないならぬかにくぎだよ。」は正しい日本語です。
- ④「間髪^{かんはつ}をいれず」とは、「少しの間もあけずに、すぐに」という意味の慣用句です。したがって、「ゆっくりと間髪をいれずに」という表現は誤りです。なお、「間髪」の読み方を「かんぱつ」とまちがえないようにしましょう。
- ⑤ この文の主語は「学びは」、述語は「思った」です。「学びは、～思った。」という文では、主語と述語が対応しません。「学びは」を主語にするなら、「この本からの学びは、友情は

大切だということだ。」、また、「思った」を述語にするなら、「私は、この本からの学びは友情は大切だということだと思った。」というような文にする必要があります。